

文学館だより

平成30年 9月 1日
若山牧水記念文学館
TEL 0982-68-9511
文 責 日 高

こかはでらへんろ

粉河寺遍路の衆のうち鳴らす鉦鉦きこゆ秋の樹の間に

大学4年の夏休みを終えて上京する途中、和歌山で詠んだうた。「けふもまたこころの鉦をうち鳴しうち鳴しつつあくがれて行く」を思い出させる。
明治40年作。『別離』収録



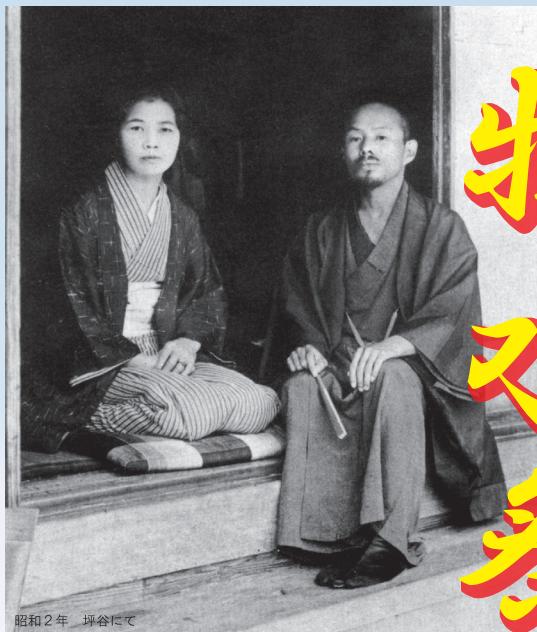
会場

牧水生家周辺及び
牧水公園ふるさとの家

※小雨決行、荒天の場合は延期し、歌碑祭のみ開催

とき

平成
30年
9月
17日(月)



牧水祭

第68回

牧水没後九十年・喜志子没後五十年

<開催目的>近代短歌史に偉大な足跡を残した日向市東郷町出身の歌人「若山牧水」を顕彰し、牧水についての理解を深めるとともに、短歌文学の発展並びに生誕の地「宮崎県日向市東郷町」を全国に発信することを目的とする。

開催目的に賛同される方であれば、どなたでも参加できます。

第一部 歌碑祭【9:30~10:00】

※受付／9:00~

(場所／牧水生家 夫婦歌碑前)

○歌碑前において短歌朗詠、献酒

第二部 牧水を偲ぶ会【10:20~14:00】

(場所／牧水公園ふるさとの家)

※第二部に参加される方は、事前申込が必要です。(先着150名)

○牧水の歌斉唱：坪谷小学校児童

○座談『牧水の新しい読み』～県内歌人・牧水賞受賞者が語る牧水像～



伊藤一彦氏



俵万智氏



大口玲子氏



吉川宏志氏

○懇談会 牧水が好きな田舎料理を囲んでの懇談会(会費／1人あたり500円)

主催／日向市 日向市教育委員会 日向市東郷町若山牧水顕彰会

(お問合せ) 日向市東郷町若山牧水顕彰会(若山牧水記念文学館内)

TEL 0982-68-9511 FAX 0982-68-9512

日向市教育委員会 文化生涯学習課 若山牧水係

TEL 0982-52-2111 FAX 0982-56-0018



第8回 牧水・短歌甲子園 盛会裏のもと開会

過去最多全国 29 校 53 チームの中から予選を勝ち抜いた 12 チームが日向市に集い、8 月 18 日（土）、19 日（日）の両日第 8 回牧水・短歌甲子園が開催されました。最多出場を誇る宮崎県立宮崎商業高等学校を筆頭に 3 校の初出場校を迎え、熱戦が展開されました。ディベートにおいては相手校の短歌を称賛しつつも、「動詞が多すぎるのではないか」とか「句またがりになっているが、あえてねらったものなのか」など追究する者ならではの鋭い質問が飛び交っていたのが印象的でした。審査員の先生方も絶賛する短歌が多かったように思いました。決勝戦は 2 年前の再来。宮崎県立宮崎商業高等学校と宮崎県立宮崎西高等学校との対戦となりました。

また、今年はテレビ局のカメラが目立ちました。特別番組も予定されているようです。乞うご期待ください。

- 【団体戦 優勝】 宮崎県立宮崎西高等学校 （優勝：2 回目、準優勝 2 回）
【団体戦準優勝】 宮崎県立宮崎商業高等学校 （優勝：1 回、準優勝初）
【団体戦第 3 位】 福岡女学院高等学校 （優勝：1 回、準優勝 1 回）
【団体戦第 3 位】 富山県立八尾高等学校 （3 位：初）



【決 勝 自由題】

宮崎県立宮崎西高等学校

- 叩かれた黒板消しが顔ゆがめ粉吐くような謝罪会見 （3 年 帖佐 光浩）
君と行く縁日たったひと匙のザラメひそかにふくらんでゆく （2 年 宮本 陽香）
体内に海を宿して少年のてくびのうらの青い血管 （2 年 中山 美玖）

宮崎県立宮崎商業高等学校

- 本のぞく白雪顔のほおに咲く桜に私は目を細めてた （1 年 黒木 もえ）
一時間待っても来ない君想いプシュッとあけたラムネのキャップ （2 年 船ヶ山明里）
月の声明日も聴けると知りながら今日の日をまだ終えられずにいる （3 年 森山景志郎）

【個人戦】

【牧水賞】 観客の投票で決まります 宮崎県立宮崎西高等学校 2 年 宮本 陽香
鮎の骨そっと引き抜くやさしさで居眠りの母の眼鏡をはずす

【若山牧水記念文学館長賞】 札幌創成高等学校 2 年 齊藤 若菜
ぶつかって理解しあえて抱きあって涙は永遠に光源となる

【日向市東郷町若山牧水顕彰会長賞】 宮崎県立宮崎西高等学校 3 年 帖佐 光浩
年々に寄贈されたるパイプ椅子並びて閉校式が始まる

【俵 万智賞】 宮崎県立宮崎西高等学校 2 年 宮本 陽香
向日葵をぐいと見上げる角度にてはじめてひとに贈るくちびる

【大口玲子賞】 札幌創成高等学校 2 年 望月 菜緒
「片想い」と言う名で君を憎んでた涙も出ずに気づいた夜明け

【笹 公人賞】 宮崎県立宮崎商業高等学校 1 年 黒木 もえ
ケンカしてコンビニよって愚痴言って夏のアイスはズルズル溶けて

○ 今年も牧水短歌甲子園へ出場してきました。が、今年は非常に悔しい結果となってしまいました。ただ、2 回の出場で僕はたくさんの方と出会い、そして短歌の魅力に惹かれました。ここまで僕を成長させてくれたこの大会には感謝しかありません。今後、恩返しがしたいです。（出場者より）

昨年もお伝えしましたが、短歌甲子園の卒業生グループ『みなと』も、現役高校生に負けず大活躍でした。今年は、進行、フィールドアナウンサー、開閉会のことば、S N S 発信、機関誌販売、交流会進行などあらゆる所で表となり裏方となり活動しており、感動すら覚えました。

今は、それぞれの地で、短歌に携わっているようです。
今後、『みなと』の皆さんの短歌を文学館に寄せてもらう約束をして
別れました。また来年の再会が楽しみです。

